

北栄町へ職員派遣

10月21日に発生した鳥取県中部地震により被災した鳥取県北栄町は、湖南市と災害時相互応援協定を締結しています。

協定に基づき支援要請があり、市では10月24日から2人ずつ交代で職員の派遣を行っています。

北栄町では、全半壊の住家は少ないものの一部損壊被害の建物が多く、派遣職員は罹災証明書の発行や家屋の被害認定調査業務に従事しています。

また、10月28日には湖南市長が北栄町をお見舞いしました。現地では、北栄町の松本町長から被害状況の説明を受けた後、町長の案内で現地視察を行いました。



▲湖南市役所での出発式



町内では屋根の損壊した部分にブルーシートをかけた建物も見られました



▲松本町長にお見舞いを手渡しました

【日頃から防災意識を】

近年、国内で自然災害が多発しており、湖南市でも同様の災害がいつ起きてもおかしくありません。災害発生時に被害を最小限に抑えるためには、日頃から防災意識を高め、災害に対する備えが必要です。市としても自助(自分)、共助(地域)、公助(市、県、国)の役割を明確にし、防災・減災への体制を整えていきます。

▶湖南市からの派遣職員は罹災証明書の発行などの業務を行っています



先月1日に東京電力福島第一原子力発電所を視察しました。これは、全国市長会の有志で臨んだものでしたが、インターネット上に流れる情報とは別の現在直面している状況について、肌感覚で知ることができました。

原子力発電所事故後の見えな国民負担や、反対に事実に基づかない流言飛語の実態など、私たちの今の暮らしのあり方をもう一度見つめ直す必要を感じました。



また、12日には、山形市で開かれた「イクボス首長サミット」に出席しました。

高度経済成長期には長時間労働をすることこそが生産的だと思われてきましたが、現在の少子化や女性の活躍を阻む原因が、日本人の長時間労働にあるという認識が広がってきました。

長時間労働が仕事と子育てなどの家庭生活の両立を困難にし、結果として少子化や女性活

躍阻害につながっているということです。

イクメン、カジダンといったことばがありますが、長時間労働を是正し、男性も家庭で育児や家事を分担することを指しますし、女性も出産後に復帰できる柔軟な職場環境や勤務形態をつくっていくという流れになっています。

部下のワークライフバランス(仕事と生活の両立)の実現を図りながら組織の仕事の結果も出す上司を「イクボス」といいますが、サミットでは、山形県知事、広島県知事、山形市長、南陽市長、桑名市長、日南市長とともにイクボス議論を重ねました。

さらに、15日には、東京で開かれた全国市長会理事・評議員合同会議で、財務省がもくろむ教職員定数の大幅削減への反対を呼びかけるとともに、その後「子どもの貧困・教育環境格差に関するシンポジウム」に参加しました。

子どもの貧困問題を放置すると、1学年分で4兆円の損失と財政出動になるとのことです。子どもは社会の宝物であり、未来に向けた財産であるとされるゆえんです。

世代間の支え合いについてもご理解をお願いします。